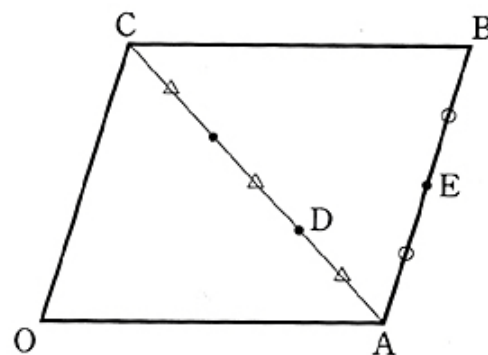


平行四辺形 OABC の対角線 AC の 1 : 2 に内分する点を D, 辺 AB の中点を E とする。

$\vec{OA} = \vec{a}$ ,  $\vec{OC} = \vec{b}$  としたとき, 次の問いに答えよ。



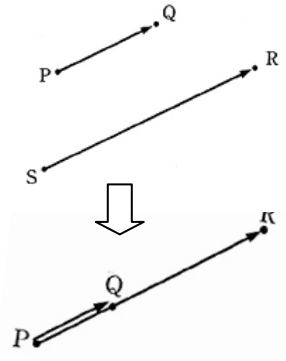
- (1)  $\vec{OD}$ ,  $\vec{OE}$  を 2つのベクトル  $\vec{a}$ ,  $\vec{b}$  で表せるとおもいますか。

- (2) 3点 O, D, E は一直線上にある！ このことを証明するにはどうしたらいいですか。

証明できる自信度は

	5 かなり
	4 まあ
	3 半分くらい
	2 少し
	1 ぜんぜんない

2つの線分  $PQ$  と  $SR$  の間に、ある実数  $k$  について  $\overrightarrow{SR} = k\overrightarrow{PQ}$  という関係があれば、 $\overrightarrow{PQ} \parallel \overrightarrow{SR}$ 、つまり2つのベクトルは平行である。ここで、2つのベクトルの始点  $P$  と  $S$  が一致した時を考えると、



3点  $P, Q, R$  が**一直線上**にあるかどうかは、ベクトルを用いると、 $\overrightarrow{PR}$  が  $\overrightarrow{PQ}$  の実数倍として  $\overrightarrow{PR} = k\overrightarrow{PQ}$  と書けるかどうか

で判断できることがわかる。

**例1** 平面上に、3点  $P(1, 2), Q(4, 4), R(10, 8)$  をとると、一直線上に並んでいるように見える。果して、正しく一直線上に並んでいるかどうかをベクトルで調べよ。

$x$  軸、 $y$  軸がある座標平面では、ベクトルの始点を「原点」に決めておくと便利である。

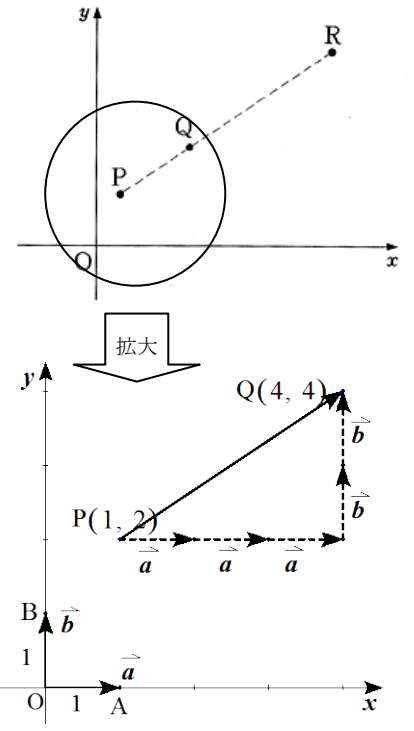
いま、 $A(1, 0), B(0, 1)$  をとり、大きさ1のベクトル  $\overrightarrow{OA} = \vec{a}$ 、 $\overrightarrow{OB} = \vec{b}$  とすると、 $\overrightarrow{PQ}, \overrightarrow{PR}$  をこの**2つのベクトル**で表せる。

右図のように直角三角形を考えると  $\overrightarrow{PQ} = 3\vec{a} + 2\vec{b}$

同様に、 $\overrightarrow{PR} = 9\vec{a} + 6\vec{b}$

ここで、 $\overrightarrow{PR} = 9\vec{a} + 6\vec{b} = 3(3\vec{a} + 2\vec{b}) = 3\overrightarrow{PQ}$

よって、 $\overrightarrow{PR} = 3\overrightarrow{PQ}$  が言えたので、線分  $PQ$  を3倍に引きのばした先に点  $R$  があることになり、3点が**一直線上**にあるとわかる。



**例2**  $\overrightarrow{PQ} = \frac{3}{4}\vec{a} + \frac{1}{4}\vec{b}$ 、 $\overrightarrow{PR} = \vec{a} + \frac{1}{3}\vec{b}$  の場合、3点  $P, Q, R$  は**一直線上**にあるか。

2つのベクトル  $\vec{a}, \vec{b}$  の係数が分数のときは、分数でくくると分かりやすい。

$\overrightarrow{PQ} = \frac{1}{4}(3\vec{a} + \vec{b})$  より、 $4\overrightarrow{PQ} = (3\vec{a} + \vec{b})$ 、同様に、 $\overrightarrow{PR} = \frac{1}{3}(3\vec{a} + \vec{b})$  より、 $3\overrightarrow{PR} = (3\vec{a} + \vec{b})$

この2式から、 $3\overrightarrow{PR} = 4\overrightarrow{PQ}$  つまり、 $\overrightarrow{PR} = \frac{\square}{\square}\overrightarrow{PQ}$  が成り立つ。

←  $\overrightarrow{PR} = k\overrightarrow{PQ}$  の  
 $k$  が分数

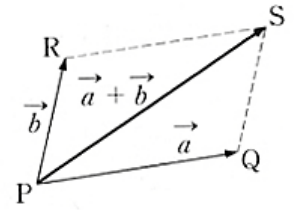
よって、3点  $P, Q, R$  は**一直線上**にある。

まとめ

3点  $P, Q, R$  について、

- ・  $\overrightarrow{PQ}, \overrightarrow{PR}$  を**2つのベクトル**  $\vec{a}, \vec{b}$  で表すことができ、
- ・  $\overrightarrow{PR} = k\overrightarrow{PQ}$  となる実数  $k$  があれば、3点は**一直線上**にある。

2つのベクトル  $\vec{a}, \vec{b}$  の和  $\vec{a} + \vec{b}$  は、始点をそろえた時、 $\vec{a}$  と  $\vec{b}$  でつくる平行四辺形の対角線になった。このとき、



2つのベクトル  $\vec{a}, \vec{b}$  が与えられると、

どんなベクトル  $\vec{p}$  も  $\vec{a}, \vec{b}$  を使って

$$\vec{p} = s\vec{a} + t\vec{b} \quad (\text{実数 } s, t) \text{ の形で、ただ1通りに表される。}$$

このことを、次の例で確認しよう。

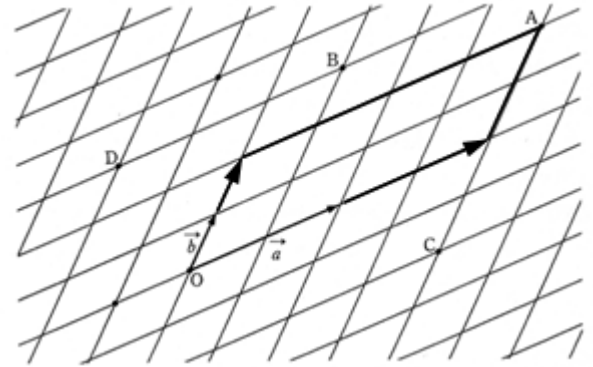
例1 図のように  $\vec{a}, \vec{b}$  が与えられたとき、 $\vec{OA}, \vec{OB}, \vec{OC}, \vec{OD}$  を  $\vec{a}, \vec{b}$  を使って表そう。

$\vec{OA}$  を対角線とする平行四辺形から  $\vec{OA} = 2\vec{a} + 2\vec{b}$

同様に、 $\vec{OB} = \frac{1}{2}\vec{a} + 3\vec{b}$

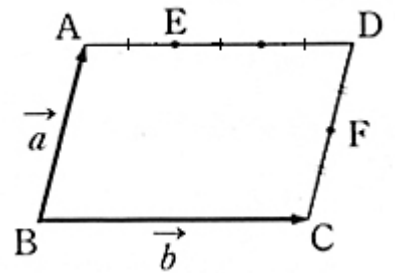
また、 $\vec{OC}$  を対角線とする平行四辺形を考えると、 $\vec{b}$  の逆ベクトル  $-\vec{b}$  を使って、 $\vec{OC} = 2\vec{a} + 2(-\vec{b}) = 2\vec{a} - 2\vec{b}$

同様に、 $\vec{a}$  の逆ベクトルを使って、 $\vec{OD} = -\vec{a} + 3\vec{b}$



例2 図のような平行四辺形 ABCD において、辺 AD を 1 : 2 に内分する点を E、辺 CD の中点を F とする。

いま、 $\vec{BA} = \vec{a}, \vec{BC} = \vec{b}$  とするとき、次のベクトルを **2つのベクトル  $\vec{a}, \vec{b}$**  を用いて表せ。



$\vec{BE}$  を対角線にもつ平行四辺形を考えて、 $\vec{BE} = \vec{a} + \frac{\square}{\square} \vec{b}$

$\vec{BF}$  を対角線にもつ平行四辺形を考えて、 $\vec{BF} = \frac{\square}{\square} \vec{a} + \vec{b}$

まとめ

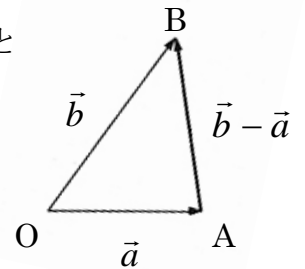
平行四辺形の対角線を考えることで、  
 どんなベクトルも、**2つのベクトル  $\vec{a}, \vec{b}$**  を用いて、 $\square\vec{a} + \square\vec{b}$  の形に表せる。

図形の辺や線分もベクトルで表すことができる。ベクトルの差を思い出すと

$\triangle OAB$  において  $\overrightarrow{OA} = \vec{a}$ ,  $\overrightarrow{OB} = \vec{b}$  のとき, 辺  $AB$  について

$$\begin{aligned}\overrightarrow{AB} &= \overrightarrow{OB} - \overrightarrow{OA} \\ &= \vec{b} - \vec{a}\end{aligned}$$

$\overrightarrow{\triangle \square} = \overrightarrow{O\square} - \overrightarrow{O\triangle}$
前→後      後 - 前



これを用いると

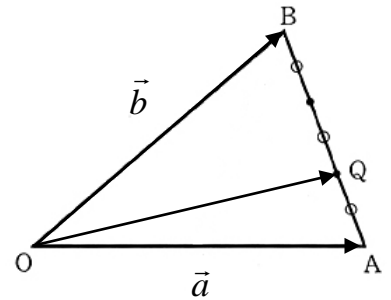
図形の頂点の1つを始点と決めると,

**内分点**を終点にもつベクトルも, **2つのベクトル**  $\vec{a}$ ,  $\vec{b}$  で表せる。

このことを次の例で確かめよう。

**例**  $\triangle OAB$  において辺  $AB$  を  $1:2$  に **内分する点** を  $Q$  とする。  $\overrightarrow{OA} = \vec{a}$ ,  $\overrightarrow{OB} = \vec{b}$  とするとき,

ベクトル  $\overrightarrow{OQ}$  を **2つのベクトル**  $\vec{a}$ ,  $\vec{b}$  を用いて表せ。



〈ステップ1〉

まず線分  $AB$  だけに着目すると, 点  $Q$  は辺  $AB$  を  $1:2$  に内分するから,  $AQ:AB=1:3$

よって,  $\overrightarrow{AQ} = \frac{1}{3}\overrightarrow{AB} \quad \dots \textcircled{1}$

〈ステップ2〉

$\overrightarrow{OA} = \vec{a}$ ,  $\overrightarrow{OB} = \vec{b}$  としているから, 始点が点  $O$  のベクトルの差を用いて

$$\overrightarrow{AB} = \overrightarrow{OB} - \overrightarrow{OA}, \quad \overrightarrow{AQ} = \overrightarrow{OQ} - \overrightarrow{OA}$$

①に代入して,  $\overrightarrow{OQ} - \overrightarrow{OA} = \frac{1}{3}(\overrightarrow{OB} - \overrightarrow{OA})$

これを变形して,  $\overrightarrow{OQ} = \frac{\square}{\square}\overrightarrow{OA} + \frac{1}{3}\overrightarrow{OB}$

$\overrightarrow{OA} = \vec{a}$ ,  $\overrightarrow{OB} = \vec{b}$  だから

$$\overrightarrow{OQ} = \frac{\square}{\square}\vec{a} + \frac{1}{3}\vec{b}$$

まとめ

図形において, 線分の**内分点**を終点とするベクトルも,

始点をそろえたベクトルの差を使えば, **2つベクトル**  $\vec{a}$ ,  $\vec{b}$  で表せる。

# ジグソー

自分以外の2人の説明を聞いて、ポイントをメモしよう。

の説明

の説明

# ジグソー

2年 組 番 氏名 \_\_\_\_\_

あらためて3人(4人)で力を合わせ、再度次の問題に答えよう。

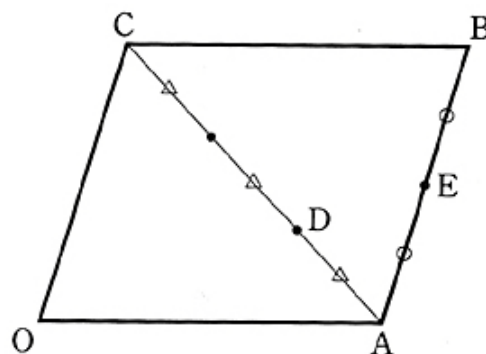
現時点で、証明できる自信度は

- |   |        |
|---|--------|
| 5 | かなり    |
| 4 | まあ     |
| 3 | 半分くらい  |
| 2 | 少し     |
| 1 | ぜんぜんない |

**1** 平行四辺形 OABC の対角線 AC の 1 : 2 に内分する点を D, 辺 AB の中点を E とする。

$\vec{OA} = \vec{a}, \vec{OC} = \vec{b}$  としたとき、次の問いに答えよ。

(1)  $\vec{OD}, \vec{OE}$  を 2つのベクトル  $\vec{a}, \vec{b}$  で表せ。



(2) 3点 O, D, E は一直線上にあることを示せ。

**2** ベクトルは「便利だ!」と思いましたか? → はい・いいえ

「はい」と答えた人は、ベクトルのどこが便利ですか